

第 36 回電子情報化委員会 議事録（案）

日時：2008 年 12 月 19 日（金）15:00～18:00

場所：JCI 会議室

出席者：中村委員長、三木幹事

浅本、甲斐、兼松、高橋、田所、八十島、吉岡の各委員
（事務局）井上、戸口

資料

- 36-0： 電子情報化委員会（第 36 回）議事次第
- 36-1： 第 35 回電子情報化委員会議事録（案）
- 35-2-1： 投稿査読システムに関わる費用見直しについて（2010 年以降）
- 35-2-2： 2010 年度以降のサーバー契約について
- 35-3： 他の学協会のメールニュース調査
- 35-4-1： 論文検索システム調査
- 35-4-2： J-STAGE NEWS ほか
- 35-5： コンクリート工学論文集デジタルアーカイブ化に関する検討の依頼（案）
- 35-6： 委員会報告書の公開に向けて－1.他団体における委員会報告書等の公開状況調査

議事

1. 議事録（案）の確認

第 35 回議事録（案）が確認された。

2. メールニュース登録者について

(1) メールニュース登録者データ報告（事務局）

- ・ 2008 年 12 月現在で、約 2100 名（9 月より約 150 名増）。

(2) 紙面による登録申込について（事務局）

- ・ 技術講習会で配布、1000 名程度の参加者に配布し、30 件回収。
- ・ 回収効率が悪いので、別の方法を検討する。詳細な議論は後のメールニュース関連（高橋）で行った。

3. 年次論文投稿システムの費用見直し

八十島委員から資料 36-2-1、36-2-2 に基づき、年次論文投稿システムの費用見直しに関する説明があった。技術的な詳細内容は、出席していただいた JP ビジネスサービスのスタッフから補足説明があった。議論の内容は以下の通り。

- ・ 論文数の急激な増加や CD を越えるようなデータ容量の増加は、ここ数年はないと考えられるので、システムのパフォーマンスは現状ベースを基本とすればよいことを確認した。
- ・ これまで使用してきたサーバーが 4 年の期間を経たため、更新する必要がある。その見積りで、特に「システムの設定」、「サーバー機器費用」、「回線費用」の項目について検討した。

- ・ システムの設定における作業内容（92 万円）は、ID、パスワードの設定など、年度ごとの画面表示内容の変更である。これらを含む各種画面の変更・設定は、プログラムから変更する必要があるため、専門技術者が行う。必要な経費である。
- ・ サーバー機器の費用については、web サーバー2 台と DB サーバー1 台の組み合わせ（総額 336 万円、年額 90 万円）と web サーバー1 台と DB サーバー1 台の組み合わせ（総額 281 万円、年額 75 万円）の比較を行った。なお、資料 36-2-1 の「機器およびソフトレンタル費用」見積額は 4 年契約のうちの 1 年の金額であり、総額を 4 分割したものである。
- ・ 現状の web サーバー（デュアルコア 3.6GHz×2 個）の処理能力は、新規サーバー（クアッドコア 3.16GHz×1 個）と理論上ほぼ同等である。CPU 負荷テストの結果を踏まえると、現状 2 台の web サーバーを 1 台にすることは可能。ただし、現在運用しているサーバーと同等スペックとするためには、クアッドコア 3.16GHz の CPU を 2 個装備することがよいと思われる。その場合の web サーバー単価は 163 万円（2 個目の CPU 追加で 25 万円程度かかる）。
- ・ 回線費用については、現状は特徴の異なる 2 回線、つまり一般回線（光回線、速い、通信切断が時々発生）と一般回線切断時の予備として専用回線（ADSL 回線、遅い、切断されにくい）を使用している。ただし、論文投稿時といったある一定期間に回線切断が重なる確率を考えると、予備回線は不要とも考えられる。一般回線のみの場合、2 回線費用から約 50 万円減額できる。
- ・ 以上を踏まえ、サーバーの更新が必要な 2009 年の費用は、サーバー費用、ならびに回線費用の組み合わせから、4 つの見積案（価格差 100 万円程度）と推奨案を次回年次大会委員会に提案する。八十島委員は原案を作成し、メール審議の上、その内容を決定する。

4. メールニュースについて

高橋委員から、資料 36-3 に基づき、メールニュースの調査状況について説明があった。

- ・ 土木学会、建築学会、ACI、ASCE、AIA、日本計算工学会のメールニュース配信状況について説明された。どの学協会もほぼ同様の内容。ただし、配信登録の方法は様々。
- ・ JCI のメール登録では、アンケートがあり、煩雑である。ただし、その内容は、会員 or 非会員、興味のある項目、などで、選択するのにそれほど時間がかからない。
- ・ 現状ではこれらのアンケート結果は会員 or 非会員のみしか用いておらず、その有効活用を考える、もしくはより簡潔な質問項目に変更する。（担当：高橋委員）
- ・ 会員については、入会申込時にメールアドレス記入欄を設ける、年次大会登録者や研究委員会メンバーなどのメーリングリストを活用するなど、積極的に登録してもらうに勧誘する。また、非会員向けには、技士講習会などの申込時にメールアドレス記入欄を設け、登録を促す。
- ・ メールアドレスの収集方法、集めたアドレスへの配信登録の方法、配信方法（回数や内容）、について、事務局の負担を考え具体的な進め方、作業内容の原案を作成する。（担当：高橋委員）

5. 論文検索システムについて

田所委員、三木幹事から資料 36-4-1、36-4-2 に基づき、J-STAGE、CiNii 論文検索システム調査

に関する説明があった。

- ・ J-STAGE（田所）では、公開・閲覧費用の有無は発行者が設定できる。ただし、掲載は無料。
- ・ 「抄録（掲載用の決まったフォーマット有り）」は、各機関（依頼者、JCI、土木学会等の学協会）または業者（代行業者に依頼する場合は費用が発生）で作成しアップロードする。
- ・ 年次論文のような年1回の大量の投稿の例はなく、実際掲載する場合はその具体的な方法を考える必要がある。また、抄録の作成など、論文数が多くなると作業が増える、もしくは費用がかかるため、具体的な方法は検討が必要。
- ・ CiNii（三木）について、申し込みは、大きく分けて大学と学協会からある。
- ・ 大学からは、主に研究紀要を登録。pdfを依頼者が作成し、各自でアップロードする。そのときに、論文タイトル、著者、概要などをウェブ上で入力する必要がある。
- ・ 学協会からは、冊子版を提出すると、国立情報学研究所でスキャンし、pdfファイルを作成してもらえる。このとき、国立国会図書館にある論文情報（タイトル、著者名、巻号、ページ数など）がある場合は、それらを用いて検索システムに登録する。
- ・ J-STAGE と CiNii には関連はない。そのため、確認していないが、両方ともに記載された論文もある可能性がある。今後はそれぞれのデータベースを統合できればと考えている。
- ・ セメント・コンクリート論文集は CiNii に登録されている。土木、建築でそれぞれ別々の検索システムを使用しているため、コンクリート分野の論文を検索するとき、どの検索システムを使用していることが閲覧者にとって利用しやすいものなのか、考えることが重要。
- ・ 建築学会、土木学会では、これらの論文検索システムを活用するのは別に、それぞれの図書館の活動として独自に各種資料をデジタルアーカイブ化し、閲覧できる環境を整えている。
- ・ 土木学会における一般公開の境目となる3年という期間は、アンケート調査、資料販売の傾向等を総合的に判断し、決定している。
- ・ それぞれの検索システムの特徴を見ると、まずはそれほど年間に発表される論文数が多くないコンクリート工学論文集を J-STAGE などに登録することを先行して検討していく（担当：椋山委員）。
- ・ 以上の調査結果をもとに、コンクリート工学論文集、年次論文集、委員会報告書など、登録する内容におけるそれぞれの検索システムを利用する場合のメリット、デメリットを整理する（担当：三木幹事、田所委員）。
- ・ 閲覧制限に用いるパスワードの管理は非常に重要な問題である。これをクリアできれば、会員専用ページ、電子アーカイブ化した資料のアクセス制限など、多くのケースで ID、パスワードを利用できる。
- ・ J-STAGE におけるパスワードの管理について、現状を調査する。（担当：田所委員）

6. コンクリート工学論文集について

椋山委員作成の資料 36-5 に基づき、コンクリート工学論文集のデジタルアーカイブ化に関する検討内容の説明があった。

- ・ 論文集編集委員会において電子化の議論をしてもらおうよう編集委員会宛依頼文案、ならびにコンクリート工学論文集のデジタルアーカイブ化を理事会へ提案するための資料についての説明があった。

- ・ 編集委員会への依頼内容は、電子投稿システムの移行、最終原稿の電子ファイルの提出、既往論文の pdf 化の必要性の検討である。
- ・ 理事会への依頼は、web 公開時の方法（独自、既存の検索システムの活用）をどのように行うか、会員専用ページの活用、新規・既往論文の pdf 化の必要性の検討である。
- ・ 電子投稿への移行は実現に向けては難しい検討内容。査読はそのまま紙ベースとするが、とりあえず最終原稿を電子化するなど、事務局や査読者の負担のできるだけ小さい作業を先行する。
- ・ コンクリート工学論文集は、論文数、年間発刊数など、論文集の性質上、J-STAGE の活用ができるのでは。具体的な方法について示す（担当：椛山委員）。
- ・ コンクリート工学論文集の掲載数が少ない現状を踏まえて、①紙版の論文集を廃止する、②電子検索システムに移行する、③最新論文はメールニュースで紹介し、メールからアクセスできるようにする、④年に一度 CD で論文のデータを配布し郵送費の削除、利便性と経済性を兼ね備えたシステムに移行できると思われる。
- ・ 依頼文の送付の前に、委員会案が受け入れられるための準備が考えられるので、事務的な負担、電子化や J-STAGE の利用のメリット・デメリットを整理するとともに、事務局と相談の上、デジタルアーカイブ化へ向けた実現可能な方法を検討する（担当：椛山委員）。

7. 委員会報告書について

田嶋委員から、資料 36-6 に基づき、委員会報告書の公開に向けた取り組みについての説明があった。

- ・ 調査は、建築学会、土木学会、照明学会、地盤工学会、日本鋼構造協会、日本地震工学会を対象とした。
- ・ ほぼすべての委員会で目次は無料で公開している。販売している報告書の目次は比較的迅速に HP に公開されている。ただし、販売終了後、情報が削除される場合もあり、アーカイブとしては使用されていない場合もある。
- ・ 地盤工学会では、委員会ごとに対応が異なっており、詳細に内容を閲覧できる場合もある。
- ・ JCI の研究員会の HP に少なくとも目次を掲載しておくことは、終了した委員会の HP を残しておくことの良い活用方法である。
- ・ 事務局から、委員会報告書について、古いものは在庫があるものが多いが、最近は余分に印刷しないため、講習会后 1 年程度で完売する傾向がある。また、JCI のサーバー容量拡張のため、現状 600MB から 100GB に変更を予定しているため、アーカイブ化の基盤は整いつつある。
- ・ 論文と性質が異なる委員会報告の公開の方法について、今後も検討を続ける。（担当：田嶋委員）

8. 次回委員会

- ・ 2009 年 3 月中旬で、メールにて日程調整を行う。→ 3 月 17 日（火）15：30-18：30